

# ねじメーカーが医療用ねじと

## 農業事業を起ち上げる

先般沼津地区ねじメーカーを訪問した。製品の80%から90%が自動車向け部品で占められており、各社とも忙しい状況が続いていることが感じられた。その中でも異色を放っていたのが、中堅ねじ部品メーカーの1社。さきほどホーマックスを増設、計二台がフル稼働している。

らに第2種医療機器製造販売業22B2X10004の認定書を取得するなど、医療向けねじの本格的な展開を推進している。同社の医療用ねじを生産している工場は、沼津から車で約三十分、伊豆半島の自然環境に恵まれた天城工場。創業六十一年、ねじ一筋に歩んできたが、ここ数年大きな変革が、盛田延之社長（昭和二十二年生まれ）によって進められている。二代目社長でもある、盛田社長は平成十一年、天城工場を建設、チタン製マイクロねじの生産を本格化しマイクロ部品製造事業を天城

工場に集約した。さらに今年に入って、事故や自然災害で自発呼吸ができなくなった患者に対して、容易に人工呼吸が行なえる、呼吸補助器を東海大学と産学連携して開発した。商品名は「QQセーバー」。指定管理医療機器として七月から発売されている。

沼津地区ねじメーカーは戦前から航空機用ねじを量産してきた。戦後は自動車向けねじ・部品類に特化しエンジン・ブレーキ、油圧部品やトランスミッションなどを生産、一部は米国の自動車メーカーにも供給されている。自動車中心の部品から医療用ねじの生産に踏み切った背景には、盛田社長の将来を見据えた並々ならぬ決断があったものとみられる。医療用ねじの生

産に欠かせないのが、精密切削設備である。同社ではシチズンマシナリーのM12シリーズを導入、量産体制を構築した。関節の医療用ねじで、チタン製について着目、冷間圧造メーカーだった同社が急拠、精密切削設備を導入、現在計六台がフル稼働している。天城工場の医療用ねじの売上げに占める比率は25%までに高まっている。

同社はここ数年自動車向け部品以外に、最先端の医療用ねじやハードディスク・携帯電話向けマイクロねじの生産を積極的に推進している。ISO9001、同14001はもとより、医療用ISO13485を取得、さ

また天城工場。創業六十一年、ねじ一筋に歩んできたが、ここ数年大きな変革が、盛田延之社長（昭和二十二年生まれ）によって進められている。二代目社長でもある、盛田社長は平成十一年、天城工場を建設、チタン製マイクロねじの生産を本格化しマイクロ部品製造事業を天城

盛田社長は「モノづくりには五感を働かせることが重要だ」と指摘している。「コンピュータ一辺倒では駄目で、自然から学ぶことが必要だ」とも強調している。農業事業と自然環境研究事業を起し上げることで、今後は地球温暖化対策にも役立てていきたいと、将来の夢を語っている。

盛田社長は「モノづくりには五感を働かせることが重要だ」と指摘している。「コンピュータ一辺倒では駄目で、自然から学ぶことが必要だ」とも強調している。農業事業と自然環境研究事業を起し上げることで、今後は地球温暖化対策にも役立てていきたいと、将来の夢を語っている。